

令和2年度 広島県立図書館資料選定委員会議（言語・文学部門）  
会議概要

1 開催日

令和2年10月8日（木） 午前9時～午後0時

2 出席者

(1) 委員（敬称略，専門部門の日本十進分類法の配列順）

認知言語学 町田 章 （広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授）

中国文学 小川 恒男 （広島大学大学院人間社会科学研究科 教授）

ドイツ文学 小林 英起子（広島大学大学院人間社会科学研究科 教授）

(2) 職員

山本館長，植田副館長，正井調査情報課長，平田資料課長，松井，貞森，前田，山田

3 会議記録

(1) 開会

(2) 館長挨拶

(3) 委員紹介（自己紹介）

(4) 職員紹介

(5) 概要説明

ア 資料収集について（資料課長）

質疑応答

イ 利用状況について（調査情報課長）

質疑応答

(6) 館内案内

(7) 意見交換

4 協議概要

- 言語学や英語学では，語学の HowTo 本が混ざっている図書館もある中で，県立図書館はほとんど混ざっていない。古い資料もそろっており，研究にとっても良い環境である。
- 「こんな良い本が所蔵されているのか」と驚いた。良い本の需要を掘り起こすために，利用しそうな人に積極的にアピールしてほしい。
- 開架には，現代ドイツ文学の新しい翻訳が多くあり驚いた。入門書も開架に出してアピールしてほしい。また，児童図書にもドイツ文学がそろえてあったが，追加してほしい本もある。
- 大学にない良い研究書もあり，もっと大学の研究者にアピールしてほしい。
- 良い本が随分と書庫に置かれている。本に囲まれてもいいので，もっと開架に本を並べてもよいのではないか。
- 電子書籍を利用する学生が多い。卒業論文などを見ても，参考文献は本ではなく，ほとんど大学紀要の電子データを見ているようだ。紀要より（より研究を）進めた本を若者に読んでもらうには，電子書籍もよいと思う。

- 研究書の翻訳本を入れてほしい。翻訳されるということは、それなりに定評があるものだとはいえる。
- 現在、中国文学の中国語の古典はほとんどが電子媒体での提供となっている。
- 中国文学としては、データベースがないと活用できない。『四庫全書』までは入れられなくても、『四部叢刊』の電子版は入れてほしい。図書館の中で使うことができれば十分である。
- 中国文学研究の出版される本は専門性が高く、一般の人も読める本がない。学問に興味を持つきっかけとして読んでほしいのであれば、少し古くても、今でも役に立つ啓蒙書や文学史などを開架に置くとよい。
- 入門のコーナーを設置したり、もう少し深く研究したい人向けに文学作品を紹介したりといった取組も考えられる。
- 学生を指導する中で、読んでおくべき本を指定すれば学生は読む。しかし、その先は電子データを利用する学生がほとんどである。検索すればたくさん出てくるので、紙の本にあたらなくなっている。本来は原書で読んでほしいが、学部生レベルでは読めない。原書の翻訳書が図書館にあれば借りるように言えるので、入れてほしい。
- 図書館としては、利用者数は気になると思うが、その数を気にして一般向けの本を集めるよりは、現在の方向性を守り、公共機関としての役割を果たしてもらいたい。